

教科別授業改善推進プラン（家庭科）

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

- ・児童は、家庭科の学習に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。
- ・裁縫の活動では、友達と教え合う場を設けたことによって、教える児童も教えられる児童も、理解を深めることができた。作業が分からないときに、すぐに解決することができた。

（2）課題

- ・コロナ禍に配慮した調理や裁縫だったため、それぞれの技能の基礎・基本が十分に身に付いていない児童がいる。
- ・学習で身に付けたことを、実生活で実践する機会が少ない。

2 重点課題

5年	<ul style="list-style-type: none">・裁縫の技能の個人差が大きい。個人指導・教え合いなどの時間の確保や方法を工夫すること。・調理に対する興味はあるが、人数に対する活動場所の制限があること。（40人学級で、調理台が9つである。よって一台あたり5名となり、活動に制限がある。）
6年	<ul style="list-style-type: none">・掃除や調理など家庭で実践することはできたが、その意欲を継続すること。・裁縫は基礎・基本の技能を習熟すること。

3 授業改善策

5年	<ul style="list-style-type: none">・玉結びや玉止めなどの裁縫の基本的な技能を高める活動を繰り返し行う。また、手順を写真や絵などで確認し、イメージをもたせながら活動する。・安全に気を付けながら、なるべく一人一人の活動が充実する内容を検討する。・授業で学習したことを家庭でも実践する機会を設ける。
6年	<ul style="list-style-type: none">・裁縫では、作品作りの前に基礎的な技能を習熟する時間を確保する。また、教え合いや助け合いを奨励する。・学習したことを家庭で継続的に実践する機会を設ける。その際に、保護者からのメッセージ欄を設けて、家庭との連携を図っていく。・個人指導や教え合いなどの時間の確保や方法を工夫する。